

2024年8月18日

2025年度  
大学院経営管理研究科 経営管理専攻  
修士課程 入学試験  
(研究者養成コース 一般選考)

【専門論述試験問題】

**解答上の注意**

- ・ 以下の1～5の問題のうち1題を選択し、日本語で解答すること。なお、希望指導教員の専門分野に拘らず、どの1題を選んでもよい。
- ・ 1題が複数問で構成されている場合は、それを構成する全ての問題に解答しなければならない。ただし[会計]については3-Aもしくは3-Bのうちどちらかを選択し、それを構成する全ての問題に解答すること。
- ・ 解答用紙の問題番号選択欄では、選択した問題番号に○をすること。
- ・ 解答用紙は1枚とする。ただし、裏面も使用できる。
- ・ 解答は、横書きにすること。

## [経営]

1. 以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) アドルフ・バーリとガーディナー・ミーンズが最初に指摘した、株式会社における「所有と支配の分離」について、(i)バーリとミーンズによる発見事実の概略、(ii)「所有と経営の分離」との違い、の2点にも言及しつつ、説明しなさい。
- (2) 戦後日本の企業システムを特徴づけてきたものの一つに、株式持ち合いの慣行がある。株式持ち合いが形成され進展した経緯・理由を述べなさい。
- (3) 株式持ち合いで保有されている「持ち合い株式」は、現在では「政策保有株式」と呼ばれることが多い。日本の上場会社の政策保有株式は近年、縮減傾向にある。これに関する、以下の2つの問いに答えなさい。
  - ①上場会社が政策保有株式を縮減させている要因について、説明しなさい。
  - ②上場会社が政策保有株式を縮減させることが経営全般に与える影響を多面的に考慮しつつ、政策保有株式縮減の是非について、あなたの意見を述べなさい。

## [マーケティング]

2. メーカーが、ナショナル・ブランド（以下 NB）に加えて、特定の小売業者のためのプライベート・ブランド（以下 PB）を製造し、当該の小売業者に対して NB も PB も提供することを、デュアル・ブランディングという。

NB を展開するメーカーがデュアル・ブランディングを行う究極的な目的は、当該の小売業者における自社の NB ブランドの売上シェアの増大だと考えられる。メーカーがこのような目標を持つと想定して、以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) メーカーがデュアル・ブランディングを促進する理由として、当該の取引先小売業者におけるカテゴリーマネジメントへの影響力の増加が考えられる。なぜそれがデュアル・ブランディングを促進する理由となるのかを説明しなさい。
- (2) メーカーがデュアル・ブランディングを抑制する理由として、自社 NB に対する消費者の知覚品質の低下が考えられる。なぜそれがデュアル・ブランディングを抑制する理由となるのかを説明しなさい。
- (3) デュアル・ブランディングの実施に対しては、メーカー個別の特徴もまた影響を与える。メーカー個別の特徴としては、以下に挙げた①～④の 4 つがある。これらから任意の 2 つを選択し、それぞれに関して、メーカーのデュアル・ブランディングの実施に対して、正の影響を与えるのか、あるいは負の影響を与えるのかを明らかにした上で、その理由を論じなさい。

- ① 当該市場における自社 NB の成長率
- ② 自社 NB 生産の規模
- ③ 自社 NB の製品ラインの幅（製品カテゴリーの多さ）
- ④ 自社 NB の差別化の程度

## [会計]

会計については、以下の3-Aもしくは3-Bのうちどちらかを選択し、それを構成する全ての問題に解答すること。

**3-A.** 連結財務諸表に関する以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 「子会社」および「関連会社」とは何か説明しなさい。
- (2) 上場会社が連結財務諸表を作成する際、関連会社の株式は「持分法」によって評価される。持分法がどのような会計処理であるのか説明した上で、持分法が「一行連結」と呼ばれる理由を説明しなさい。
- (3) 上場会社が連結財務諸表を作成する際、関連会社株式について持分法によって評価するのではなく、公正価値によって評価すべきであるという考え方がある。関連会社株式は、持分法によって評価されるべきものなのかそれとも公正価値によって評価されるべきものなのかを、根拠を示した上で論じなさい。

**3-B.** 原価計算の目的に関わる以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 原価計算の目的には、大きな体系として①財務会計目的と②管理会計目的があり、管理会計目的には経常的目的(②a)と臨時的目的(②b)があるが、これら3種類の目的に含まれる具体的な活用目的について、それぞれの違いが明確になるように、説明しなさい。
- (2) 原価計算は、原価計算制度と特殊原価調査とに分類されるが、両者の違いを明確にしつつ、両者の原価計算について説明しなさい。また、両原価計算について、(1)で説明した各種目的との関係性を説明しなさい。
- (3) 原価計算の目的に関連して、「異なる目的には、異なる原価を」という標語が存在するが、この標語が主張していることを具体例を挙げて説明しなさい。

## [金融]

4. 以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 資本コストに関する以下の3つの問いに答えなさい。

- ① 加重平均資本コストとは何か説明しなさい。
- ② 加重平均資本コストの推計方法およびそれを使用する際の留意点について説明しなさい。
- ③ レバレッジを上げると資本コストは低下するという主張は必ずしも正しくない。正しくない理由を説明しなさい。

(2) 市場の効率性に関する以下の2つの問いに答えなさい。

- ① 証券市場における市場の効率性とはどのような概念か説明しなさい。
- ② 証券市場が効率的ではないことを示唆する現象を3つ挙げなさい。また、それらの現象が効率的ではないことを示唆すると考えられる理由を説明しなさい。

(3) 銀行に対する自己資本比率規制の景気循環増幅効果 (**pro-cyclicality**) とは何か、またそのような効果が生じるメカニズムについて説明しなさい。

[共通基礎]

5. 以下の全ての問いに答えなさい。結論に至った計算等の過程も示しなさい。

(1) 変数  $x, y, z$  に関する連立一次方程式

$$\begin{cases} 4x + y + 3z = t \\ x - y + 2z = 2 \\ 2x + 3y - z = 3 \end{cases}$$

に関して以下の問いに答えなさい。

- ① 係数行列の階数を求めなさい。
- ② 解をもつように定数  $t$  を定め、その方程式の一般解を求めなさい。

(2)  $\mathbb{R}^2$  上の関数  $f(x, y) = (x^2 - y)(2x^2 - y)$  が極値をもつか否かを判定して、極値をもつ場合はその値を求めなさい。

(3) 以下に示す表で結合確率が与えられている離散確率変数  $X, Y$  に関して、次の問いに答えなさい。

- ①  $a$  の値を定めなさい。
- ②  $X, Y$  の相関係数が 0 になることを示しなさい。
- ③  $X, Y$  が独立であるか否かを調べなさい。

$X \backslash Y$	0	1	2
0	$\frac{1}{4}$	0	$\frac{1}{4}$
2	$\frac{1}{10}$	$\frac{3}{10}$	$a$